

午後外来診療開始のお知らせ

小国公立病院 院長 坂本 英世

近年、町のみなさんからご要望が多かった、総合診療科・外科の午後の診療を平成28年6月より再開いたしました。



14時～16時の2時間。

午後の診療当番医が診療を行います。

手術・検査・病棟の処置など、様々な理由により、総合診療科・外科の午後の外来診療は急患のみに限定させていただいておりましたが、午後の診察のニーズの増大と午前外来の待ち時間のストレスを少しでも軽減できる様、午後診察の優先順番を上げ、ご要望にお応えした形です。

医師・看護師の不足が解消された訳ではなく、午前の診療と同様というわけにはいきませんが、可能な限りの診療を行いますので、予約日以外で具合が悪い時や、予約日にお越しになれない時には、どうぞお気軽にご利用下さい。来られる前に病院受付

にお電話いただけますと、待ち時間の少ない時間をお知らせいたします。

尚、午後の診療は、主治医ではなく、その日の当番の医師が診ることになります。これまでの治療の流れを把握している担当主治医と同様の診療とはいきませんので、予約日にお越しになった方が望ましいことはこれまで通りです。

これまで、具合が悪い方が予約日まで我慢されたり、他の診療所にお世話になることも多かったとお聞きしておりました。今回の午後診療の再開により、これまでより、少しでも利用しやすい公立病院になる様、期待しています。



今後も、町のみなさまのご意見を反映しながら、公立病院の運営をより良いものにしていきますので、ご支援のほどよろしくお願いたします。

ゆたあ〜と

発行

小国公立病院
0967-46-3111

おぐに老人保健施設
0967-46-6111

訪問看護ステーション
0967-46-6050

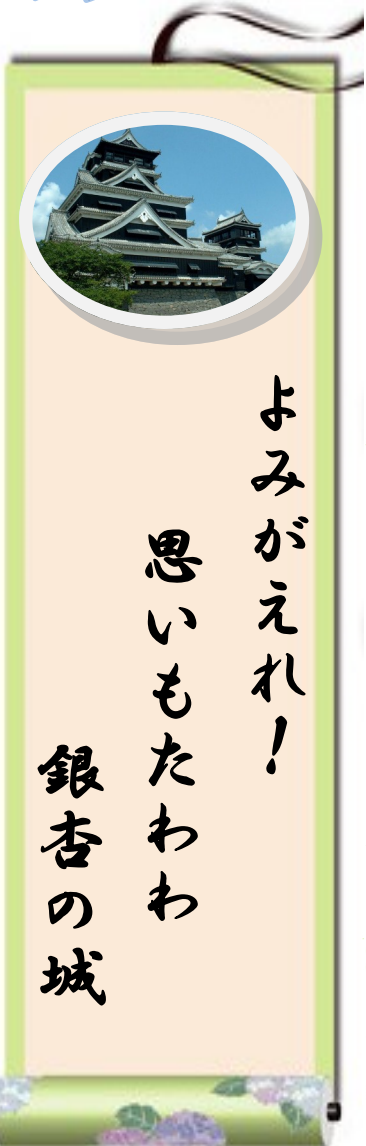
小国調剤薬局
0967-46-5736

ゆう薬局
0967-46-6320

7月号

平成28年7月

職員川柳



漢方が得意とする病気や症状(その1)

総合診療科 山田 治行



このような場合、西洋医学で一本一本の木を治療しようとする、各科を回って、たくさん薬を飲まなければなりません。しかし、森全体をみる漢方だと一剤か二剤で済むことが多いのです。特に、加齢による様々な症状に対しては漢方でないと対処は難しいとさえ言われています。次号では「漢方が得意とする病気や症状(その2)」をお届けします。

前々号で述べたように、漢方は『森を見る医学』です。「目がかすむ」「頭が痛い」「足がしびれる」「関節が痛い」といった、体のあちこちに不具合が出るようなときは、森全体が荒廃していると考えられます。

〈訴えの多い病気〉

現在、心の状態は身体面に大きく影響することが分かっています。しかし、西洋医学では1970年代になりようやく「心身症」という病名で認識されるようになったばかりです。一方、漢方では心と体は切り離せないという「心身一如」の考え方が基本になっており、心の不調(特にストレス)から生ずる様々な病態や症状、そしてその治療理論が確立されています。

〈心の不調が原因で体が病気になる場合〉



おぐに老健だより

〜おぐに老健での調理活動〜



作業療法士 穴井 憲一

おぐに老人保健施設では、リハビリの一環で、リハビリと栄養科と一緒に調理活動を行っています。

目的は、家事からしばらく遠のいている入所者の方が、家に戻ってからスムーズに家事に取り組めるようにするためであったり、認知症の利用者の方が、馴染みの活動を通して調理の手順や切り方を考えたりと、状況に合わせて行うなど様々ですが、何よりは、楽しみながら活動を行うことを一番に考えて活動をしています。

参加された皆さん、昔とった杵柄

で、てきぱきと手際よく作業され、生き生きとした表情を見せてくれます。

活動後は「楽しかった」「久しぶりにできてよかった」「また参加してみたい」など、提供した側としても嬉しい感想を言って頂けます。

今回は、「野菜を切る」作業と「どら焼き」を焼いてみました。出来上がったどら焼きはみんなで美味しく頂きました。今後も、楽しく取り組める工夫をしながら、調理活動を行っていきたいと思います。

《野菜切り》

手慣れたものですね



《どら焼き作り》

美味しく出来上がりました!!



癒やしの場所 売店紹介

今回、小国公立病院内にある売店の紹介をしたいと思います。

こちらの売店は「九州フードサプライセンター」という会社が管理されており、現在は佐野貴久子さん、室原喜久代さん、佐藤浩美さん、原山由美さんの4名の方々が交代で勤務しています。

自動販売機しか並んでいなかった場所に、平成15年9月1日に売店としてオープンし、今年で14年目と



なるそうです。

飲料水や必要品の販売もですが、患者様やご家族、老健利用者、そして職員のうちよとした『癒やしの場』となっているようです。

実は、「この癒やしの場の光景が、他の病院で勤務されてきた先生方から見ると、とても珍しく、他病院では見られない、ほのぼのとし



た空間だそうです。

それだけ、売店の方々の対応が良く、居心地が良い場所であり、それはその空間を作って頂いている4人の方々に感謝致します。

売店で過ごしている時間は、病気でつらい身体や心を少しでも忘れられる場所として、利用させて頂ければと思います。今後とも宜しくお願い致します。

「HbA1c」とは

臨床検査技師 有住 将尚

生活習慣病として多くの人に認知されている『糖尿病』は、「空腹時(随時)血糖値」「75gOGTT」「HbA1c」の3つの血液検査を用いて診断されます。

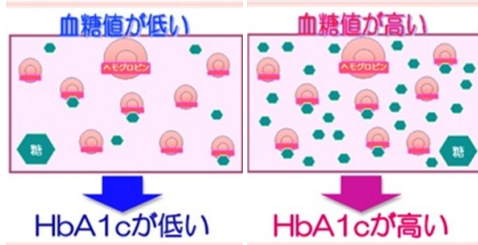
今回はその中の「HbA1c」についてご紹介します。

血液の中には液体成分とは別に、赤血球や白血球・血小板などの有形成分が存在しており、そのうち赤血球にはヘモグロビンという全身に酸素を運ぶ役割をもつ成分が存在しております。

このヘモグロビンは血液中のブドウ糖と結びつくことでグリコヘモグロビンというものになります。このグリコヘモグロビン内の一部を「HbA1c」といい、赤血球の寿命が尽きるまで血中に残ります。この「HbA1c」がグリコヘモグロビン全体の何%あるかを測定する事で糖尿病の診断基準として利用されております。

HbA1cの特徴は

- ・ 過去1〜2ヶ月の血糖値の指標となる
- ・ 直前の食事の影響がない
(空腹時でも満腹時でも値は変わらない)
- ・ 低血糖など、現在の状態はわかりません。



糖尿病を疑う基準は、「HbA1c」が6.5%以上とされております。

また日本糖尿病学会が熊本で開催された学術集會にて「熊本宣言2013」を発表しました。糖尿病による様々な合併症を予防する為、糖尿病患者様は「HbA1c 7.0%以下を目指しましょう」という宣言です。

次回は平成28年9月配布予定です。お楽しみに!!

